



まきのゆおんせん 喜久乃湯温泉 (甲府市朝日5丁目)



▲喜久乃湯温泉
ホームページ



昭和元(1926)年創業の温泉銭湯です。文豪・太宰治が通ったことでも知られ、玄関の下駄箱や脱衣所の木製ロッカー、内壁上面の広告看板などは昭和の趣き色濃く残し、戦前からあると言われている体重計は当温泉を代表するひとつ。古くから地域の方々に親しまれ、かつては多い時に1日1,000人を超える人が訪れることもありました。家風呂が普及してからも、地域の憩いの場として幅広い層が来訪しています。令和8年に開業100周年を迎え、甲府における近代の市民生活・文化の歴史を今に伝えています。地域住民はもちろん、県内外からの愛好者も多く、文化の継承性が期待されています。



▲昭和の雰囲気が残る建物。随所に使われている柄ガラスは必見です



▲喜久乃湯温泉を代表する体重計

5月5日の端午の節句に合わせ、菖蒲の葉を浮かべた菖蒲湯を実施予定。邪気を払い無病息災を願うとされている季節湯のひとつです。菖蒲の香りにはリラックス効果や血行促進、殺菌作用があり、疲労回復や腰痛・冷え症の緩和に効果的とされています。ぜひ、この機会に訪れてみてはいかがでしょうか。

新たに4件が甲府遺産に認定されました

- 国母の地名と姫見塚(国母八丁目)
- 甲府城下の菓子文化～澤田屋の菓子文化【銘菓「くろ玉」を中心とする伝統菓子とその製造技術・製造道具】～(中央四丁目)
- 甲府城下の菓子文化～桔梗屋発祥の地【甲府本館】～(青沼一丁目)
- 住吉神社のお田植神事(住吉一丁目)

【地域の発展、郷土愛の醸成などを目的に市ホームページ等で発信します】

とびだせ！市民レポーター！

職員の想いをつなぐ『広報こうふ』

毎月届く『広報こうふ』。そして、さまざまな施設で見かける「こうふ歳時記」ポスター。こういった想いで、どのように作られているのでしょうか。市民である私たちが当たり前目にしているものには職員の方々の想いが詰まっています。今回は甲府市役所情報発信課のお仕事の一部を取材しました。

📷 パズルのように作られる誌面

『広報こうふ』は、情報発信課広報係の職員を中心に制作されています。冒頭の特集ページは、担当課に取材をしながら作成しているそうです。その他の記事やお知らせは、担当部署から集まった原稿を整理し誌面にしていきます。職員それぞれがスケジュールを把握しながら制作を進め、特集や記事を組み合わせ、まるでパズルのように誌面が作られています。印刷前の最後の校正*作業では、間違いがないか、読みにくいかを音読しチェックしています。数年前と比べて誌面の活字が大きくなっており、日々読みやすくなっているように感じます。



▲特集ページの取材の様子

※校正…誤字脱字、表記の誤りがないか
チェックする作業

📷 あなたも発信「#甲府日和」

情報発信課では、甲府の魅力を広く伝えるため、InstagramやXを通じてハッシュタグ「#甲府日和(ハッシュタグコウフビヨリ)」を広める取り組みを行っています。この「甲府日和」は職員の方の発案によるもので、「甲府で過ごす心地よい一日」という意味が込められているそうです。皆さんもぜひ、甲府の日常や風景、まちなかでの発見などを「#甲府日和」をつけてSNSで投稿してみてくださいね！



▲『広報こうふ』3月号の表紙は「#甲府日和」でした！

📷 ポスターからはじまる魅力発信

2024年度から始まった「こうふ歳時記プロモーション事業」。作成されるポスターには四季折々の甲府の魅力が表現され、KOFUプロモーションデザインディレクターの中野シロウさんがデザインを手がけたポスターもあります。ポスターは職員の方が市内自治会のほか、市内外の施設へ掲示してもらうようお願いして回っているそうです。まちで見かける一枚のポスターの裏には、温かな手仕事がありました。観光客の目にもふれるポスターは、市内外に「甲府ファン」を増やす取り組みとなっています。



▲中野シロウさんがデザインした2025年のポスター

市民レポーターブログ [\[市ホームページ\]](#)
市民レポーターブログ 検索



今月の担当レポーター 野呂 貴美恵

普段なかなかフォーカスされにくいことを伝えたくて、今回「情報発信課の取り組み」を取材しました。私は甲府に移住して25年。その時から、甲府のイベント情報や取り組みを知るには『広報こうふ』を活用していました。人の温かさがこもった広報誌。これからも、応援していきます。

